





# スワッ！出火！ 「社殿を火魔から守れ」

## 文化財防火デー自衛消防団訓練



一月二十二日、午前十時、当大社の火災報知器のベルが突然たたまたましく境内に鳴り響いた。

消火器を持って走る神職、バケツに水を入れてかける巫女、「本殿裏山より出火、全員配置につけ」当大社自衛消防団長、宇都宮権宮司の指令が飛んだ。

本殿右側裏山より白煙が立ち、境内にも白い煙が広がった。

巫女によるバケツリレー、常設の消火器よりホースがのびる、宇都宮団長のハンドマイクより、「一番、三番放水始め四番、五番待機せよ」指令が飛ぶ、水しぼきの中、各隊員は、それぞれの責任場所に行き消火体制に入った。

額を、時代順に古いものから列記し紹介していくとしよう。

◇天正年中(一五七三—一九二一)。画像狩野法眼元信筆・和歌聖護院宮筆。大宮司宗像氏貞津宮に奉獻と伝えられている。

◇延寶八年(一六八〇)九月二日。画像狩野永真筆・和歌持明院其時筆。筑前藩主黒田光之奉獻。裏書あり。

◇貞享三年(一六八六)。画像笠笠半助筆・和歌大野市太夫筆。筑前藩主黒田光之奉獻。裏書あり。

◇元禄十三年(一七〇三)。画像・和歌立花五郎佐衛門重根筆。同人自筆により中津宮に奉納、裏書あり。

◇安永八年(一七七九)八月朔日。画像・和歌鶴崎斎長連子(小方守厚)筆。両浦氏子中庄屋藤十郎代中津宮に奉納。裏書あり。

サイレンの音高く、玄海町消防団第一分団早川分団長以下十四名が消防車で現場に到着、境内に真白いホースがスル〜とびる、二本、三本、分団長のトランシーバーより「放水始め」の指令が出る、水柱が高く白煙のひた、この間約四分である、さすがにあざやかなものである。

これは毎年行われている玄海町消防団第一分団と当大社自衛消防団との合同防火訓練で、今年は二十六日の文化財防火デーに先だて、二十二日に行われた。自衛消防団の実力が試される訓練でもある。

一月二十六日の「文化財防火デー」というのは、昭和二十四年一月二十六日、奈良法隆寺の障壁画が修復作業中に火災燃失し、又二十五年には京都金閣寺が全焼すると云ふ不祥事が相次いだ。この様な事故により、国の大切な文化財が火災によって消失するのを防火器により訓練を行った。



北九州市長選の真っ只、下当社御参拝の件、葦津宮中、街頭は選挙一色となつた二月一日の日曜日、恒例の八幡宗像会昭和六十二年度新年総会が、八幡東区中央二丁目北九州市勤労者会館に於て開催された。

総会は四十余名の会員出席のもと、当社より養父宮司と職員一名が出席し、午前十時三十分より開催された。今崎副会長の開会の言葉の後、物故会員の冥福を祈る黙祷が出席者一同より捧げられた。

続いて、安永義紹会長の挨拶が行われ、次に今崎副会長の報告、会計報告、監査報告とついで、来賓挨拶として当社養父宮司より昨年の礼官文親王殿、社秋季大祭には家族伴々参拝した。

八幡宗像会、宗像市および宗像郡に關係する八幡東・西区に在住する若しは勤務する有志の方々と組織され、会員相互の懇親を計り慶喜を行い、宗像大

## 三十六歌仙扁額

### 所蔵品の紹介 楽松子

いま宗像大社の神宝館で、五セットの「三十六歌仙扁額」を、みていくことは神前にこの他に沢山の歌仙扁額が、奉納されていることであろう。

一句とその歌を詠んだ歌人の肖像画とが書かれていた。左右の各十八枚が合わさった三十六枚で、一組の絵馬となる。神社が所蔵しているものは、安土桃山時代(戦国時代とも呼ばれる)の天正年間(約四〇〇年前)から、江戸時代後期の安永年間(約二〇〇年前)にかけての(約二〇〇年)間に、田島の辺津宮と大島の中津宮とに、奉納されていたものである。中央の絵師が描いた絵馬と、地方の絵師が描いたものとがある。

保存状態が非常に良く、いまかかれた絵の様に色艶もよく、色彩が鮮やかな物から、落判が激しく残影もとはい物もある。全体が黒ずみ、しみだらけの絵板を感じさせる等、収納の状況によりその現況は千差万別ではあるが、一つのことろにこれほど多く収蔵されているのも大変珍しい。

宗像大神が当時も多くの人々の信仰を、あつめていたことが思いおこされる。まず初めにここに現存している五組の三十六歌仙扁額を、時代順に古いものから列記し紹介していくとしよう。



すでに各新聞で報道されているが、昨年十二月に当社の三十六歌仙扁額の調査も終了している。これは、山根有三東大名教授、平田寛九大教授、黒田泰三出光美術館学芸員を中心とした

て、九州大学美術史研究室の手によって行われたものである。くわしくは今年の五月上旬に九州大学で開催される日本美術学会で、黒田氏によりその研究発表がなされる。

## 五穀豊穰を感謝し 献米奉告祭斎行

### 八幡宗像会総会開催さる

去る一月十三日、午前十一時、新春恒例の献米奉告祭が厳粛に斎行された。今年にはあいにくの雪模様となつた。

この御祭は、郡内氏子の方々より献げられた新米を御神前に供へ申し上げ、去年の春季大祭に五穀豊穰を祈念して、大社の恩顧を戴いて、稔りの秋には五穀が豊かに実り、国民の糧を満して戴いた神恩に感謝する。新年の五穀豊穰、無病息災、家内安全を祈念する祭である。

当日は、雪の為、いっそう寒さも厳しかったが、古くから神の依代として尊ばれた鏡と、新年を迎えるにあたり神にお供えする特別な祝いの丸い餅を結びながら、鏡餅と呼ぶようになり、この鏡餅をいただくことで、神の神威を受け、その年の豊穰と平穏につながると伝えられている。

当社は、当日「雑煮」や「しろこ」に、約千個の餅が用意され、参拝者や神社職員一同が舌づつみを打ちながらいただいた。

尚、年末に奉獻された新米は、毎朝の日供祭に神饌として神前にお供えされ、浦校区の高山茂氏が奉仕された。

二月始めの残雪が屋根にのこる寒い日、宗像市野坂区長中村薫信氏ほか二名の総代さんが来社された。野坂神社本殿お屋敷葺きの野坂神社御影堂に参拝して、この野坂神社に参拝した。

国道三号線、宗像市南郷光岡交差点より原町に入り南郷小学校前を右折すると旧野坂村に入る。

このあたりは、旧村落の面影をのこし、田んぼの畦道に残る雪が美しい。

鞍手郡にぬける猫峠に向つて約二キロ右に進むと道は二つに別れ、右側に浄土宗「西福寺」の大屋根が見え、左側の低い丘が野坂神社の鎮守の森である。

野坂神社の前に立つと道路近くの一の鳥居には、奉納宮公一千廿五年祭(右)

柱、維時昭和三年四月(左)を刻し、中央の扁額は「野坂神社」と記されている。数段の石段を昇ると二の鳥居があり、これには大正八年己未年(右柱)十一月建立之氏子中(左柱)が刻されている。これと記されている。これで野坂神社と呼ばれていた。明治、大正の頃までは住吉神社と呼ばれていたが、その後、神社統合のために、昭和の始め頃より「野坂神社」と呼ばれたのであつた。さすれば、神庫にあらた「住吉神社」の意も解せるのである。

本殿棟に輝く神紋を見た時、「宗像大社神紋に似ていないぞ」と思ったが、それはなぜかと思つたが、不思議に思いながら石段を昇り、拝殿前に立った。立派な社である、特に本殿の立派なおどろいた。流れ造りの屋根に残った雪が太陽にキラ〜と輝き、一



押することを主目的として活動されている。

(昭和六十二年役員名)

名譽会長 岡崎 春雄  
会長 安永 義紹  
副会長 深田 健三  
顧問 今崎 五郎  
理事 今崎 一雄  
占部真太郎  
立花彦一郎  
小嶋 正美  
金丸 清美  
正野 宏  
真鍋 公昭  
蔵野 英男  
伊豆野三子  
大和 孝子  
高田アイ子  
古野由美子  
池浦ハナ子  
今崎 一雄(兼)  
立花彦一郎(兼)  
監査 名越 五郎(兼)  
事務 八幡東区末広町十一  
八 今崎一雄幹事宅

祭典は、先ず祭場の清明殿に参進、修殿の後、宮司祝詞奏上、続いて御神恩感謝の奉告詞が朗々と奏され、引続き、古式豊かな豊舞が奉納された。更に氏子代表者を始め、崇敬者各位が玉串を献ずる敬虔な祈りを捧げられた。

この行事のいわれは、「古くから神の依代として尊ばれた鏡と、新年を迎えるにあたり神にお供えする特別な祝いの丸い餅を結びながら、鏡餅と呼ぶようになり、この鏡餅をいただくことで、神の神威を受け、その年の豊穰と平穏につながると伝えられている。」

当社では、当日「雑煮」や「しろこ」に、約千個の餅が用意され、参拝者や神社職員一同が舌づつみを打ちながらいただいた。

尚、年末に奉獻された新米は、毎朝の日供祭に神饌として神前にお供えされ、氏子の皆様の安全と弥栄が祈願されます。

野郡社寺めぐり (17)

野坂(住吉)神社 (宗像市野坂)



### 魅惑のメロディーを奏でる

#### 「神郡フォルクローレ」の紹介



金曜日、大社斎館 大時大受感動し、その音楽で熱心な練習が行われていました。今回は、同グループの今後の活動等について、神島さんに伺ってみたい。この音楽との出会いはいつですか。

神島「昭和五十七年、第十回神道国際友好会南米宗

氏子青年を中心に、昨年四月誕生した南米イカ音楽グループ「神郡フォルクローレ」、メンバーは八名、この若者達は、宗像大社春秋大祭に奉納される「主基地方風俗舞」の継承者で、黒色バンドとして注目され、テレビ、ラジオ、新聞等に報道されました。当社神島福徳宜をリーダーとするグループで、毎週デスフォルクローレを聴

### 未来の宗像のために 今私達ができることは!!

社団法人 宗像青年会議所  
理事長 高 向 正 秀



今、日本は大きく変化しようとしています。今日の我が国をとりまく世界情勢、又国内の政治・経済などあらゆる社会情勢を分析した時、それは将に変革の時代といっても過言ではありません。

人類の有史以来国家の興亡は世の常であり、今日迄の世界史の中でどれほどの国が興り滅びていったことでしょうか。その中にある我が国は建国以来二千数百年の歴史と伝統を持つ、世界でも類をみない国家なのである。この永遠なる国、日本の正しい姿と民族の誇りを護り続け、子孫へ継承していくことを私達に課せられた重大な使命だと痛感せざるを得ません。

私達は国のため郷土宗像のために何をなすべきか、真剣に考え行動しなければと意識するという地域に密着した活動を行うべき団体に籍を置き、様々な活動を通して地域の発展と明るい豊かな社会を築くことを目指す。私達が、青年としての使命と責務に情熱を燃やして、一人一人が最善を尽くし、額に汗して真摯な態度で活動する姿こそ、地域の人々の御理解と御支援をいただく原点だと考えておりま

私達は常に我が国の、郷土の歴史を正しく理解し、その伝統を保持しつつも、時代の趨勢を的確に把握し、時代に即応した活動を行うと共に、地域の人々が何を求め、如何にすれば共に活動出来るかをいつも念頭に置いて、会議所活動を行ってこそ、私達社宗像青年会議所の存在価値があるものと確信致しております。

本年度過去の活動を基に、自己研鑽を計りながらより良い街づくりの為に、次の方針で活動してまいります。

地域の将来を考える時、先ずなすべきことは、その地域の歴史を、地域の特色を正しく理解することだと思ひます。その観点からいへば、私達のごくく愛する

私達は常に我が国の、郷土の歴史を正しく理解し、その伝統を保持しつつも、時代の趨勢を的確に把握し、時代に即応した活動を行うと共に、地域の人々が何を求め、如何にすれば共に活動出来るかをいつも念頭に置いて、会議所活動を行ってこそ、私達社宗像青年会議所の存在価値があるものと確信致しております。

私達は常に我が国の、郷土の歴史を正しく理解し、その伝統を保持しつつも、時代の趨勢を的確に把握し、時代に即応した活動を行うと共に、地域の人々が何を求め、如何にすれば共に活動出来るかをいつも念頭に置いて、会議所活動を行ってこそ、私達社宗像青年会議所の存在価値があるものと確信致しております。

### 第三十回 宗像マラソン大会

八百余名が参加年々盛大に

新春の宗像路に健脚を競う、第三十回宗像マラソン大会が、一月十八日(日)、参拝者で賑わう当社大社頭にて盛大に開催された。



今年大会には約八百余名が参加、午前九時三十分迄に当社大社駐車場に集合し、祈願式後に出発した。

今年大会には約八百余名が参加、午前九時三十分迄に当社大社駐車場に集合し、祈願式後に出発した。

今年大会には約八百余名が参加、午前九時三十分迄に当社大社駐車場に集合し、祈願式後に出発した。

今年大会には約八百余名が参加、午前九時三十分迄に当社大社駐車場に集合し、祈願式後に出発した。

今年大会には約八百余名が参加、午前九時三十分迄に当社大社駐車場に集合し、祈願式後に出発した。

今年大会には約八百余名が参加、午前九時三十分迄に当社大社駐車場に集合し、祈願式後に出発した。

今年大会には約八百余名が参加、午前九時三十分迄に当社大社駐車場に集合し、祈願式後に出発した。

今年大会には約八百余名が参加、午前九時三十分迄に当社大社駐車場に集合し、祈願式後に出発した。

今年大会には約八百余名が参加、午前九時三十分迄に当社大社駐車場に集合し、祈願式後に出発した。

今年大会には約八百余名が参加、午前九時三十分迄に当社大社駐車場に集合し、祈願式後に出発した。

今年大会には約八百余名が参加、午前九時三十分迄に当社大社駐車場に集合し、祈願式後に出発した。

今年大会には約八百余名が参加、午前九時三十分迄に当社大社駐車場に集合し、祈願式後に出発した。

今年大会には約八百余名が参加、午前九時三十分迄に当社大社駐車場に集合し、祈願式後に出発した。

今年大会には約八百余名が参加、午前九時三十分迄に当社大社駐車場に集合し、祈願式後に出発した。

### 社務日誌抄

- 一月一日 歳旦祭
- 一月二日 新年祭
- 一月三日 元始祭
- 一月五日 新出光石油機代表取締役田尻謙徳氏・同若杉健太郎氏外三十三名参拝
- 一月七日 出光興産福岡支店長 林史郎氏外十六名参拝
- 一月七日 出光興産工場参拝 ユニ工兵庫工場参拝
- 一月七日 出光興産会長 大和勝氏外五名参拝
- 一月七日 西日本鉄道社長大屋麗之助氏外二百二十名参拝
- 一月八日 出光興産社長 出光昭介氏外二十五名参拝
- 一月八日 福岡県交通安全協会会長木元敬氏・福岡県警交通部長平石治氏外七十四名参拝
- 一月十三日 献米奉告祭 玄海町消防第一分団正月警備反省会
- 一月十四日 福岡運輸船安推進会・武田石油油輪参拝
- 一月十四日 福岡県交通安全協会会長木元敬氏・福岡県警交通部長平石治氏外七十四名参拝
- 一月十五日 九州光運会参拝
- 一月十五日 九州光運会参拝
- 一月十六日 九州液化瓦斯福岡基地撤収後水野信久氏外四名参拝
- 一月十七日 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長
- 一月十八日 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長
- 一月十九日 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長
- 一月二十日 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長
- 一月二十一日 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長
- 一月二十二日 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長
- 一月二十三日 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長
- 一月二十四日 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長
- 一月二十五日 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長
- 一月二十六日 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長
- 一月二十七日 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長
- 一月二十八日 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長
- 一月二十九日 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長
- 一月三十日 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長
- 一月三十一日 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長 出光興産福岡支店長



### 宗像大社歌会 俳句作品集(二)

鐘崎 岩瀬 辰夫  
浜に立てば肌刺す風や寒の  
入り

田熊 丸九 一郎  
破魔弓をかざりて曾孫たたく  
ましく

福岡 広慶一寿軒  
大黒の神話や因幡の白兔  
香焚きてより一族の初宴

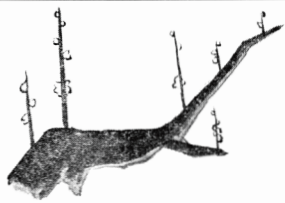
津屋崎 井浦 良介  
子供着殖ゆ早春の物干し竿  
年玉を握らず曾孫手のぬく  
み

福岡 二宮 末子  
お年玉背中の子までが手を  
のばす

藤沢 井上 玄洋  
初春や沖ゆく船の影もなく

津屋崎 西住喜三郎  
朝日さす方を恵方と手を合  
はせ

名古屋 野崎 傳三  
沖釣りの舟より仰ぐ初日之  
出



(続)

## 決の寄物

### 海漂器と台湾の叫び 4

15



福迫男女青年投奔自由

次に「海軍将兵決起亡命優待規定」についてみておこう。

一、中華民国政府は中共海軍将兵が決起し、亡命する者に対しては、一律に過去を認めず、生命の安全を保障し、人格を絶対に尊重し、国軍将兵と同等の待遇を受けることができ、下記の優待が与えられます。

(一) 決起して亡命したすべての中共海軍将兵は功績に応じて官職が上がりま

原子力潜水艦	黄金 両
ミサイル潜水艦	五〇〇〇
潜水艦	四〇〇〇
潜水艦救難艦	三〇〇〇
潜水母艦	七〇〇〇
ミサイル駆逐艦	九〇〇〇
駆逐艦	五〇〇〇
ミサイル防空駆逐艦	四〇〇〇
防空駆逐艦	二五〇〇
海防砲艦	二〇〇〇
巡視艦	八〇〇〇
高速ミサイル艇	一五〇〇〇
水中翼艇	一〇〇〇〇
高速魚雷艇	五〇〇〇

(二) 反共決起して亡命した者は、すべてその自由意思により、国軍に加入することを、或いは指導を受けて就職することも、進学することもできます。

等、空軍の規定とも内容はほぼ同じである。

二、艦艇を操縦するすべての決起亡命者には、どの艦にも下記の標準賞金が発給されます。

三、その他の種類の艦艇を操縦してくる決起亡命者は、類似した艦艇の賞金に準じて発給されます。

四、艦艇の賞金は、決起に参加したすべての中共海軍将兵に発給され、決起した時に特に功績のあった人に対しては、別に厚い報酬が与えられます。

五、中共海軍艦艇の武器を破壊し、その戦闘能力を失わせ、それゆえ国軍のために捕虜になった者には、功績に応じて厚い賞金が与えられ、官職も抜擢昇格がされます。

六、決起亡命の記号

(一) 藍間・白旗を掲げ艦砲にシールをかぶせ、砲門を空に向けて、人を砲座から離す。

(二) 夜間・昼間の規定以外に信号のために三つの赤色灯をともし、全艦の灯火をすべてつける。

(三) もし国軍の艦艇に遭

遇するか、国軍駐屯地の海岸へ接近した時には、赤色信号弾を発射し、信号灯を使用し、国際モース符号のDを絶え間なく発するすみやかに国軍の艦艇と連絡をとって、誘導してもらって港に進んで下さい。

ちなみに、黄金五千兩とは邦貨で約三億五千万円と、さて海軍になると、逃亡や亡命のような行動は、艦艇を複数で動かさなければならず、全員の意思統一がなければ無理である。したがって危険度も高く、成功率も低いということになる。

空軍のような例は極めて少ない。昨年だったか、艦艇が韓国近海まで来て、結局は中国に引き渡され、主謀者は処罰を受けた事件がある。

漁船の逃亡は、海漂器の伝單の中で知り得るが、それは「福迫男女青年投奔自由」のあって、男女七人が逃亡しているものことである。福迫は、福建省のことである。

宗像文書の「宗像大官司」である。

天正十三年分限帳の中に、金剛兵衛盛高、稲光太郎左衛門なる武士の名が見えてくる。これらは他の数千人の家臣と共に、宗像大官司を領主と仰いで戦国時代稲尾の活躍をした人たちであった。そしてこの金剛、稲光の二名は共に刀鍛冶でもあった。彼等は刀剣作製の傍ら武士として、

刀剣史の上では、室町時代は最も需要が多かつた時代であった。にもかかわらずこの時代の日本刀は概して粗製乱造であった。質よりの量が要求されたからであつた。この「数打物」の東刀の用語がこの時代の一面を物語っている。刀は各時代の美術品を代表するものといわれる。

り、さらにすぐれた刀が工夫される様になる。それはさておき、宗像家の金剛兵衛盛高、稲光太郎左衛門らの二門は領主宗像大官司の需要に応じて多くの作刀をしたであろう。隣国豊後の大友宗麟の膝元では、所謂「高田もの」と云われる平長盛、平鎮教、平鎮盛らが一心に鍛刀に励んだことであろう。一方筑後の大石には左系の家永、永永、教永らが、肥前には大村の三池典太光世があり、更に平戸に盛吉、盛重が、肥後には同田



宗像兵衛盛高

## まつりと生活 (二) 祓について

まつりと生活 (二)  
祓について

神社では祭りをを行う時には、必ずその奉仕者、すなわち神職は潔斎(身心を清めること)を行います。これは神の御前では、常に清浄でなければならぬからで、祓が行われます。それは、神職が神前に進んで祓納(はらへことば)というものを唱え、その後必ず、祓串(棒に紙垂と麻をつけたもの)で、左、右、左と三度、頭上を振ります。これは、神に祓を祈るという所が、大事な行事で何かにつけて行われます。

次に「海軍将兵決起亡命優待規定」についてみておこう。

一、中華民国政府は中共海軍将兵が決起し、亡命する者に対しては、一律に過去を認めず、生命の安全を保障し、人格を絶対に尊重し、国軍将兵と同等の待遇を受けることができ、下記の優待が与えられます。

前にケガレとか罪とかができませんでした。ケガレについてはいろいろな説がありますが、この場合は、死ななことをいいます。罪は神道では天津罪、国津罪と二種類ありますが、人間として犯してはいけない全ての悪事を意味します。

キリスト教に於いては、罪は生れながらにして罪人であるといわれています。つまり原罪説です。旧約聖書の中でアダムとイブが禁断の果実を食べたことによって、人間の祖先が始めて犯した罪だから原罪と言われている。だから罪は永遠に消えることではない。

現代の様に高度化社会、情報化時代においても、祭りやお参りの時に、お祓いをうけ、さっぱりとした気持ちで帰って来たい人々を多く見受けまします。いかにも神道の国民であると思われま

夏は夏というふうには、おりの季節にもそれぞれ長所があり、又それを生かしながら自然の中に生れ、自然にさかえ、常に自然と共に生活を繰返してきた我々日本人でないでしょうか。

(Y・S記)

神社では祭りをを行う時には、必ずその奉仕者、すなわち神職は潔斎(身心を清めること)を行います。これは神の御前では、常に清浄でなければならぬからで、祓が行われます。それは、神職が神前に進んで祓納(はらへことば)というものを唱え、その後必ず、祓串(棒に紙垂と麻をつけたもの)で、左、右、左と三度、頭上を振ります。これは、神に祓を祈るという所が、大事な行事で何かにつけて行われます。

次に「海軍将兵決起亡命優待規定」についてみておこう。

一、中華民国政府は中共海軍将兵が決起し、亡命する者に対しては、一律に過去を認めず、生命の安全を保障し、人格を絶対に尊重し、国軍将兵と同等の待遇を受けることができ、下記の優待が与えられます。

前にケガレとか罪とかができませんでした。ケガレについてはいろいろな説がありますが、この場合は、死ななことをいいます。罪は神道では天津罪、国津罪と二種類ありますが、人間として犯してはいけない全ての悪事を意味します。

キリスト教に於いては、罪は生れながらにして罪人であるといわれています。つまり原罪説です。旧約聖書の中でアダムとイブが禁断の果実を食べたことによって、人間の祖先が始めて犯した罪だから原罪と言われている。だから罪は永遠に消えることではない。

現代の様に高度化社会、情報化時代においても、祭りやお参りの時に、お祓いをうけ、さっぱりとした気持ちで帰って来たい人々を多く見受けまします。いかにも神道の国民であると思われま

夏は夏というふうには、おりの季節にもそれぞれ長所があり、又それを生かしながら自然の中に生れ、自然にさかえ、常に自然と共に生活を繰返してきた我々日本人でないでしょうか。

宗像文書の「宗像大官司」である。

天正十三年分限帳の中に、金剛兵衛盛高、稲光太郎左衛門なる武士の名が見えてくる。これらは他の数千人の家臣と共に、宗像大官司を領主と仰いで戦国時代稲尾の活躍をした人たちであった。そしてこの金剛、稲光の二名は共に刀鍛冶でもあった。彼等は刀剣作製の傍ら武士として、

刀剣史の上では、室町時代は最も需要が多かつた時代であった。にもかかわらずこの時代の日本刀は概して粗製乱造であった。質よりの量が要求されたからであつた。この「数打物」の東刀の用語がこの時代の一面を物語っている。刀は各時代の美術品を代表するものといわれる。

り、さらにすぐれた刀が工夫される様になる。それはさておき、宗像家の金剛兵衛盛高、稲光太郎左衛門らの二門は領主宗像大官司の需要に応じて多くの作刀をしたであろう。隣国豊後の大友宗麟の膝元では、所謂「高田もの」と云われる平長盛、平鎮教、平鎮盛らが一心に鍛刀に励んだことであろう。一方筑後の大石には左系の家永、永永、教永らが、肥前には大村の三池典太光世があり、更に平戸に盛吉、盛重が、肥後には同田

(Y・S記)



宗像兵衛盛高